

生涯の健康に関する理解促進事業 学習指導略案

対象学年：第3学年

1 研究主題

3年間の「未見の我の発見」を通し、卒業後も自ら適切な行動選択ができるようにするための授業を実施する

2 主題設定の理由

- ① 社会を形成する一員としての責任を自覚させる。
- ② 卒業までの3年間取り組んできたことや自己の成長に着目し、自己有用感を高める。
- ③ 卒業後は自らの行動選択により生き方や健康状態が変化することを伝え、適切な行動選択ができるようにする。

上記の3点について、産婦人科医の専門的な観点を交えて授業を展開することにより、卒業後も健康で自分らしい生活を送ることが出来ると考え、主題を設定した。

3 生徒の実態

- ・ 対象とする第3学年は、入学当初は新型コロナウイルス感染症拡大のため、臨時休校が2カ月間あった。その後も自宅学習期間や時差登校、行事の中止等、教育活動が制限された高校3年間を送った学年である。また、成人年齢が引き下げられ、在学中に成人を迎える。
- ・ 見通しをもって行動できるようにすること、基本的な生活習慣が身につけられるようにすることに課題がある。
- ・ 前年度実施した産婦人科医を招へいした保健講話では、とても真剣に聞く様子が見られ、生徒たちにとって興味関心の高い内容であったことがうかがえた。また、学校生活においても、真剣に取り組む姿勢があり、委員会等に率先して関わる生徒が多い。

4 単元（活動）計画（第3学年）

| 学年 | 特別活動 | 保健体育科 | 家庭科 |
|----|--|--|-------------------|
| 1 | ・自己の成長と健康管理について | 『性感染症・エイズとその予防』 ・性感染症、エイズが他の感染症と異なる点、予防とその対策について | |
| | | 『健康に関する意志決定・行動決定』 ・意思決定、行動選択に影響を与える要因について ・適切な行動選択のについて | |
| 2 | ・自己の成長と健康管理について | 『思春期と健康』 ・思春期における男性と女性の体の変化を学ぶとともに、思春期の心の発達に関わって起こる問題について | ・衣食住の生活の自立と設計について |
| | | 『性意識と性行動の選択』 ・性意識の男女差について 情報が性行動の選択に影響を及ぼすことについて ・適切な行動選択について | |
| | | 『妊娠・出産と健康』 ・妊娠出産の過程と、健康課題について ・妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスについて | |
| | | 『避妊法と人工妊娠中絶』 ・家族計画の意義と適切な避妊法について ・人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について | |
| 3 | ・自己の成長と健康管理、進路活動による自己理解について | | |
| | （本時） ・命の大切さについて ・社会に出た後もよりよい人生を歩んでいける自己の行動選択について | | |

5 本時の指導（全2時間中の2時間目）

(1) 指導のねらい

産婦人科医の講話を通して命の大切さについて考え、自身の身体や経験と向き合うことにより、社会に出た後もよりよい人生を歩んでいけるよう、自己の行動選択をするために正しい知識を習得する。

(2) 展開

| | 学習活動 | ○ 指導上の留意点・配慮事項 ▶ 評価 |
|-----------|---|---|
| 導入 5分 | 1 本日の講話について 授業の目的について触れ、生徒に理解を促し、人生設計を考える上で、日々の生活や健康と向き合うことの大切さ、早い段階から正しい知識を得て健康的な生活を送ることの大切さを伝える。(T1) ・ どのように生きたいか (T2) | ○ 事前に体調不良や聞いていて気分が優れない生徒については退室できる旨を伝える。 |
| 展開 60分 | 2 生と性 (T2) 今を生きる生と未来につなげる性の話から、性行為はコミュニケーションであることを学習する。 3 妊娠出産 ・ 女性の身体、男性の身体、妊娠出産について復習する。 ・ 赤ちゃんが生まれてからの生活について学習する。 4 妊娠適齢期 ・ 妊娠出産と人生設計の大切さについて学習する。 ・ 経年と卵子の数、妊娠出産の限界、高齢出産の現実とリスクについて学習する。 | ○ 合意がなければ人権侵害犯罪行為に当たることにも触れる。 ○ 妊娠した場合の選択肢と実際にかかる費用、相談先について触れ、望まない妊娠の意味と避妊の大切さについて考える。 ○ 自身の人生設計において、妊娠出産をするのかしないのか、するならいつまでにするのかを自身で考えるきっかけをつくる。 |
| まとめ 5分 | 5 相談先の紹介 (T2) 6 質疑応答 (T1) | ○ 人生設計を考える上で、日々の生活や健康と向き合うことの大切さ、早い段階から正しい知識を得て健康的な生活を送ることの大切さを確認する。 ○ 一人で抱え込まずに相談することの大切さを学習する。 ○ 状況に応じた相談先を知っておくことで将来のよりよい行動につなげる。 ○ WEBによる事後アンケートの実施。(授業後) ▶ 産婦人科医の講話を通して、命の大切さについて考え、自身の身体や経験と向き合うことにより、社会に出た後もよりよい人生を歩んでいけるよう、自己の行動選択をするための正しい知識を理解している。 |

(授業者…T1：保健体育科教員等、T2：産婦人科医等)